

首都直下地震に備えシェイクアウト訓練を実施！

11日（水曜）、東日本大震災から4年目を迎え、区は、区内全域でシェイクアウト訓練を実施し、44,182名が参加しました。区立阿佐ヶ谷中学校には、シェイクアウト訓練を提唱する「アメリカシェイクアウト提国会議」が視察に訪れ、子どもたちの訓練の様子を見守りました。

11日、区は、東日本大震災の教訓を忘れず、発生が危惧されている首都直下地震に備えるため、区民が発災時にいち早く身の安全を確保できるよう、シェイクアウト訓練（自主参加型一斉防災訓練）を実施しました。

シェイクアウト訓練は、あらかじめ決められた時刻に、参加者全員が机の下などに隠れ、その場で身の安全を守る行動を取る訓練です。区では、平成24年度から、個人あるいは学校や会社等のグループ単位で、事前に参加登録を受け付け、3月11日の午前11時に行っています。

3回目となる今回は、44,182名（速報値）の参加登録を受け付けました（昨年は42,009名）。その中の一つ、区立阿佐ヶ谷中学校（校長：石井良典、住所：阿佐谷南1-17-3）には、14日から仙台で開催される第3回国連防災世界会議に出席するため訪日中のマーク・ベンティン氏（アメリカシェイクアウト提国会議事務局長・南カルフォルニア地震センター局長）が視察に訪れました。

ベンティン氏が見守る中、午前11時、教室に地震発生の放送が流れると、1～3年生の生徒11クラス247名が一斉に机の下に身を隠しました。先生の指示のもと、子どもたちは、頭や体を守るよう声を掛け合って機敏に行動しました。訓練の様子を見て、ベンティン氏は子どもたちに「シェイクアウト訓練への参加ありがとうございました。皆さんの姿に感銘を受けました。日本は地震の多い国です。訓練の大切さをご家族にも伝えてください。」と話していました。



【問い合わせ先】

危機管理室防災課・総務部広報課

TEL：3312-2111（代表）